

学内広報

for communication across the UT

東京大学の 防災対策



東京大学安全管理委員会
防火・防災対策部会



特集：「東京大学の防災対策」改訂！

2008.5.16

No. 1373

「東京大学の防災対策」が26年ぶりに改訂されました。今回の改訂では、地震の事前対策とともに直後の対応について、全学レベルでの行動を中心に記載しています。

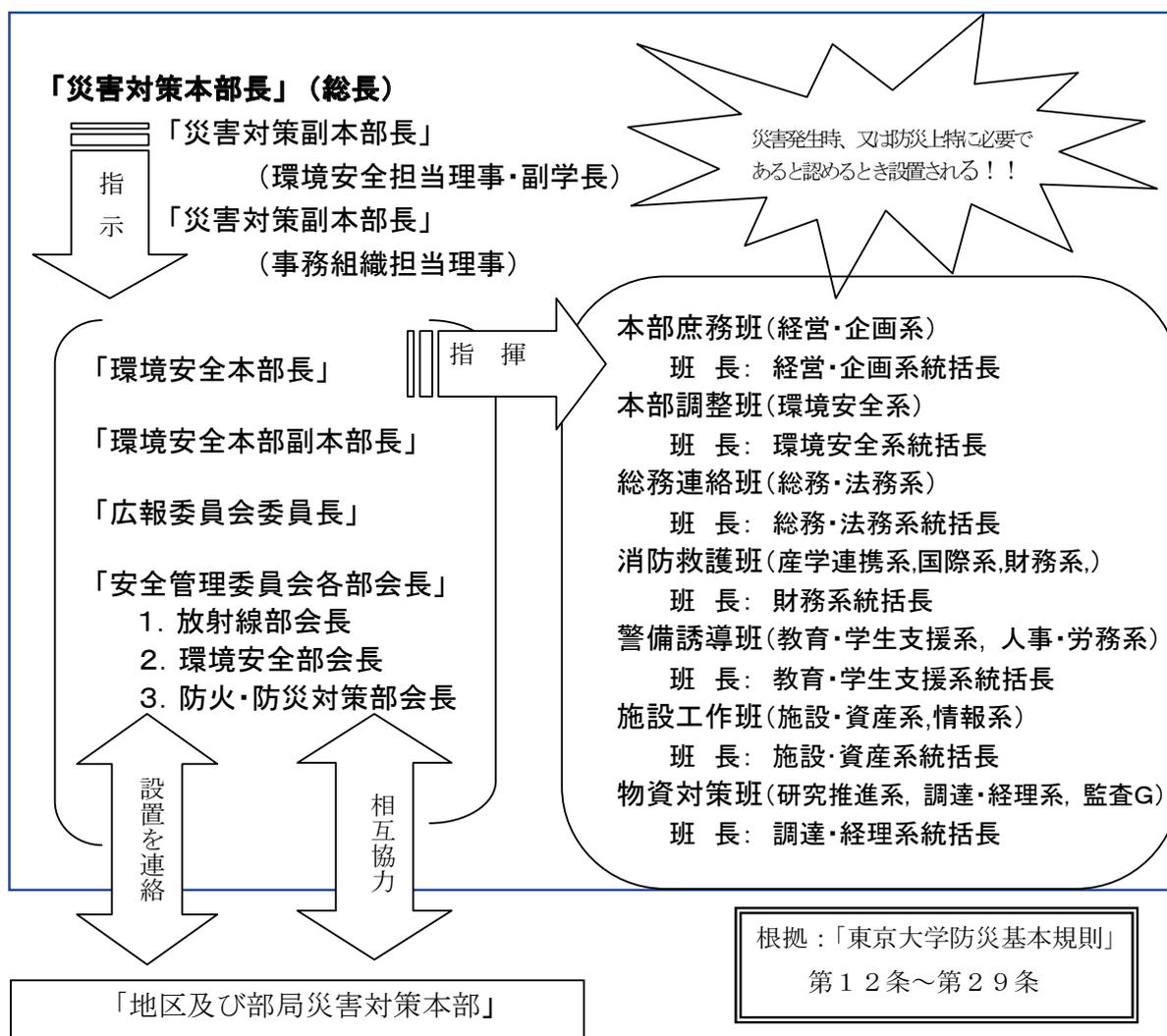
以下、重点的な部分をご紹介しますので、「簡易版マニュアル」として、ご活用いただくと幸いです。



地震発生時における東京大学の対応

「災害対策本部」 (第3章 p.014 ~ p.029 参照)

首都圏あるいは本学附属施設の周辺で、相当な被害をもたらす地震（震度6以上の地震）が発生した場合、「災害対策本部長」（総長）は、「災害対策本部」を設置するよう指示します。また、地区及び部局には「地区及び部局災害対策本部」が設置されることとなります。



※ 本書は「東京大学安全管理委員会防火・防災対策部会」が作成しました。

「災害対策本部」各対策班の組織及び分掌業務

対策班	班長	担当系	分掌業務	備考
本部庶務班	経営・企画 系統括長	経営・企画系	・「災害対策本部長」の指示に関すること	
			・「災害対策本部」内の連絡調整	
			・文部科学省との連絡調整	
本部調整班	環境安全 系統括長	環境安全系	・「環境安全本部長」の指揮遂行に関すること ・他の対策班との連絡調整	
総務連絡班	総務・法務 系統括長	総務・法務系	・総務連絡班の総括	
			・「災害対策本部」の設営(施設工作班と共同)	
			・本部棟及び第2本部棟への周知活動	
			・「地区及び部局災害対策本部」との連絡調整	
			・情報の収集・伝達	
			・区役所・消防署・警察署などとの連絡調整	
			・避難住民などの現状把握 ・マスコミなどとの対応	
消防救護班	財務系統 括長	産学連携系, 国際系,財務 系	・消防救護班の総括	
			・教職員・学生の安否確認	
			・傷病者の救護、病院への転送	
			・被災場所への救援(地区及び部局の消火救護活動の支援に関すること)	
			・初期消火活動	
警備誘導班	教育・学生 支援系統 括長	教育・学生支 援系, 人事・ 労務系	・警備誘導班の総括	
			・教職員・学生の誘導	
			・避難住民などの誘導	
			・立入禁止区域の設定	
			・構内避難場所・道路の確保	
			・契約警備会社との連携	
施設工作班	施設・資産 系統括長	施設・資産 系, 情報系	・施設工作班の総括	
			・「災害対策本部」設営(総務連絡班と共同)、救護所の設営	
			・建物被災状況などの把握	
			・通信回線、電力設備の保全・復旧	
			・給水設備(高架水槽、受水槽)の確保	
			・仮設テント及び仮設トイレの確保・設置	
			・作業員の確保	
			・情報ネットワークの確保	
物資対策班	調達・経理 系統括長	研究推進系, 調達・経理 系, 監査G	・物資対策班の総括	
			・必要物品の調達	
			・援助物資の受領・配給	
			・備蓄品の管理・分配	
			・非常食の配給・炊き出し	

各部局でも左図に
做った防災規則の
見直しを行ってく
ださいね☆



また、見直しのと
きは、部局の自衛
消防組織と「地区
及び部局災害対策
本部」各対策班と
の関連性をゼッタ
イに忘れないで！
約束だよ♪

※「災害対策本部」は、「山上会館2階大会議室」(Tel:03-3818-3008)、被災状況が軽微な場合は「本部棟12階大会議室」(内線:82023、82024)に設営されます。

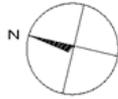
※「災害対策本部」各対策班は、本部事務職員で組織されます。「地区及び部局災害対策本部」も「災害対策本部」に準じて地区及び部局の事務職員を中心に組織されます。

東京大学の
防災対策

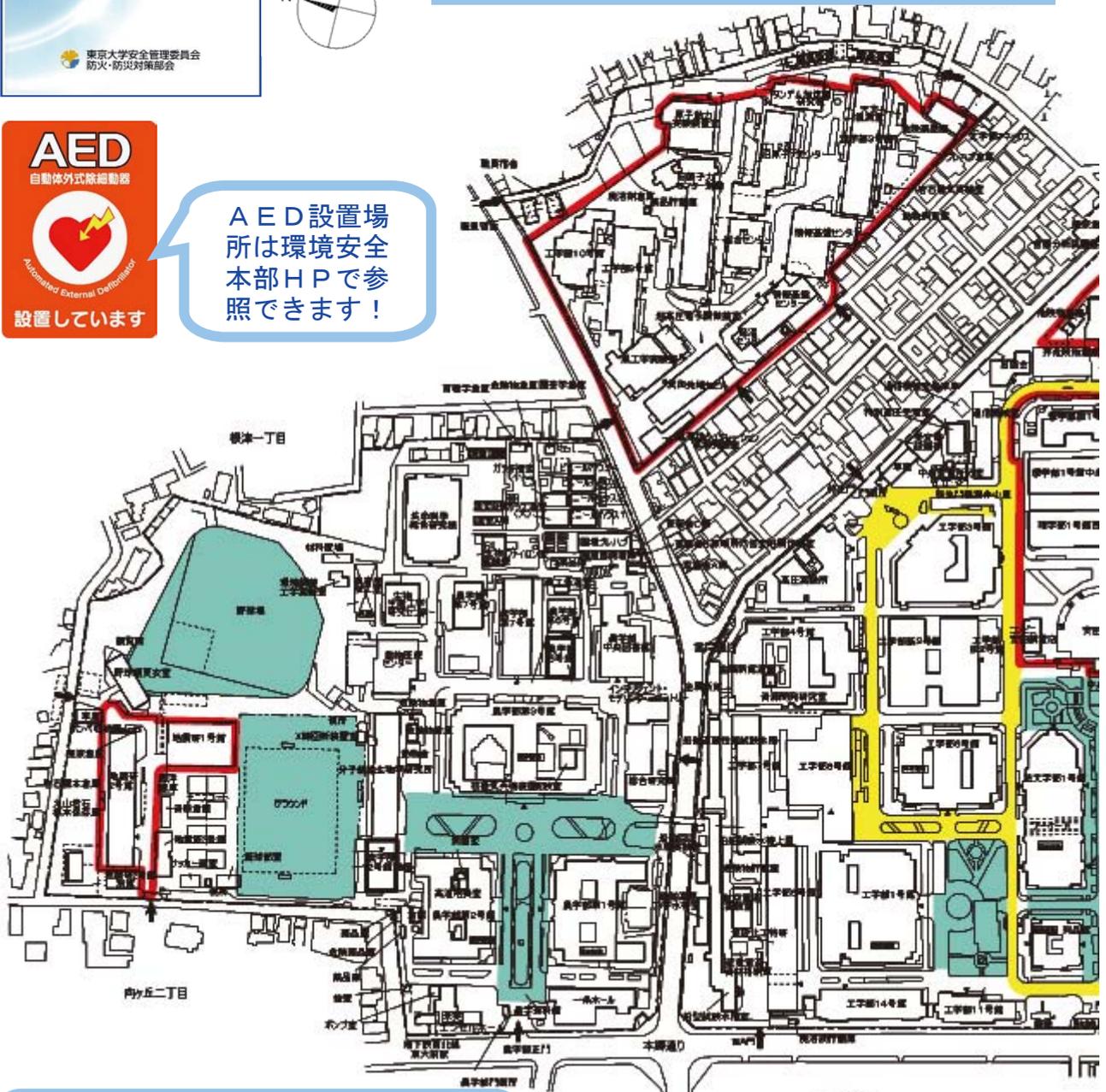
東京大学安全管理委員会
防火・防災対策部会

本学では、セーフティー・
エリアを定めています！

本郷地区キャンパス



AED設置場
所は環境安全
本部HPで参
照できます！



東京都知事指定による広域避難場所

東京大学(文京区本郷、弥生)、駒場東大・駒場野公園一帯(目黒区駒場・世田谷区北沢)、
東京大学附属中等教育学校一帯(中野区南台)。そのほか、白金台四丁目(医科学研究所)、
白山三丁目(大学院理学系研究科附属植物園)。

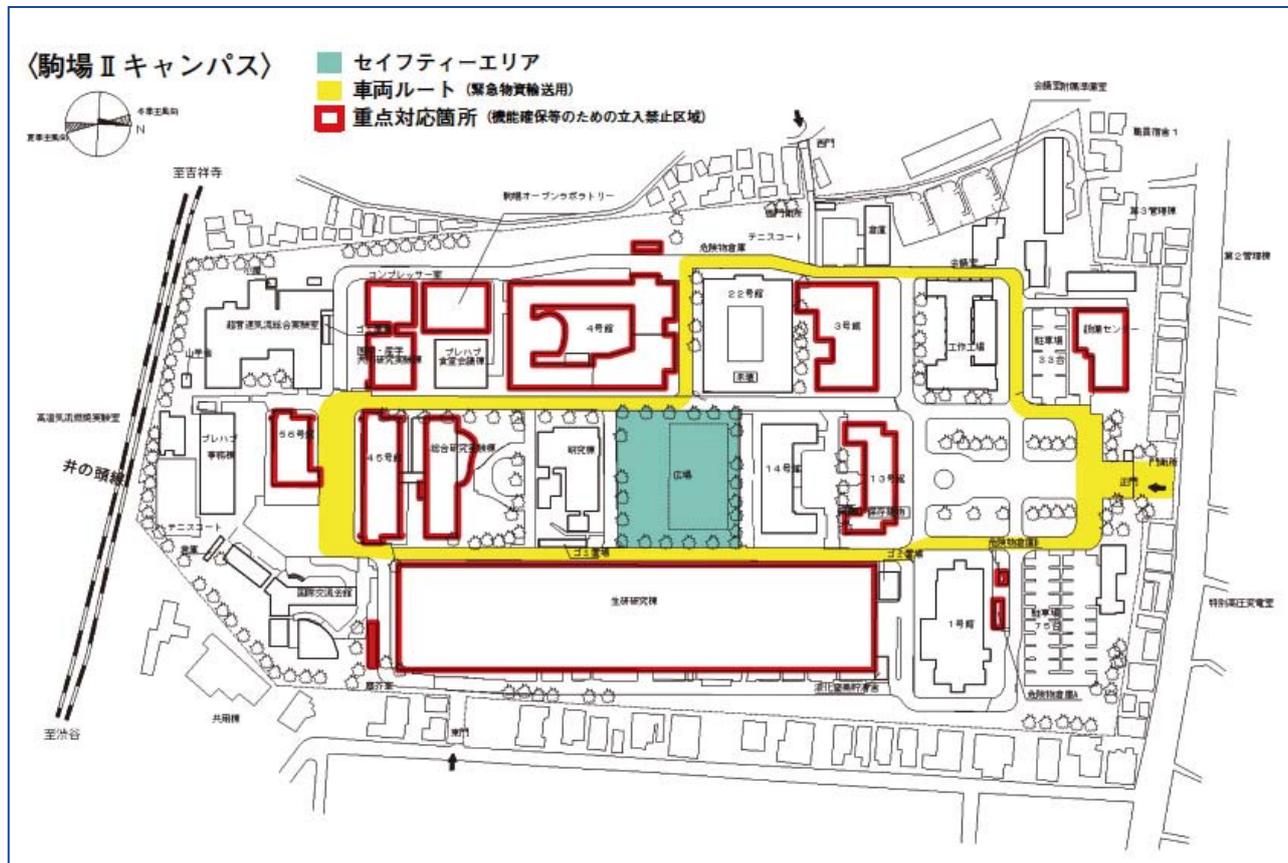
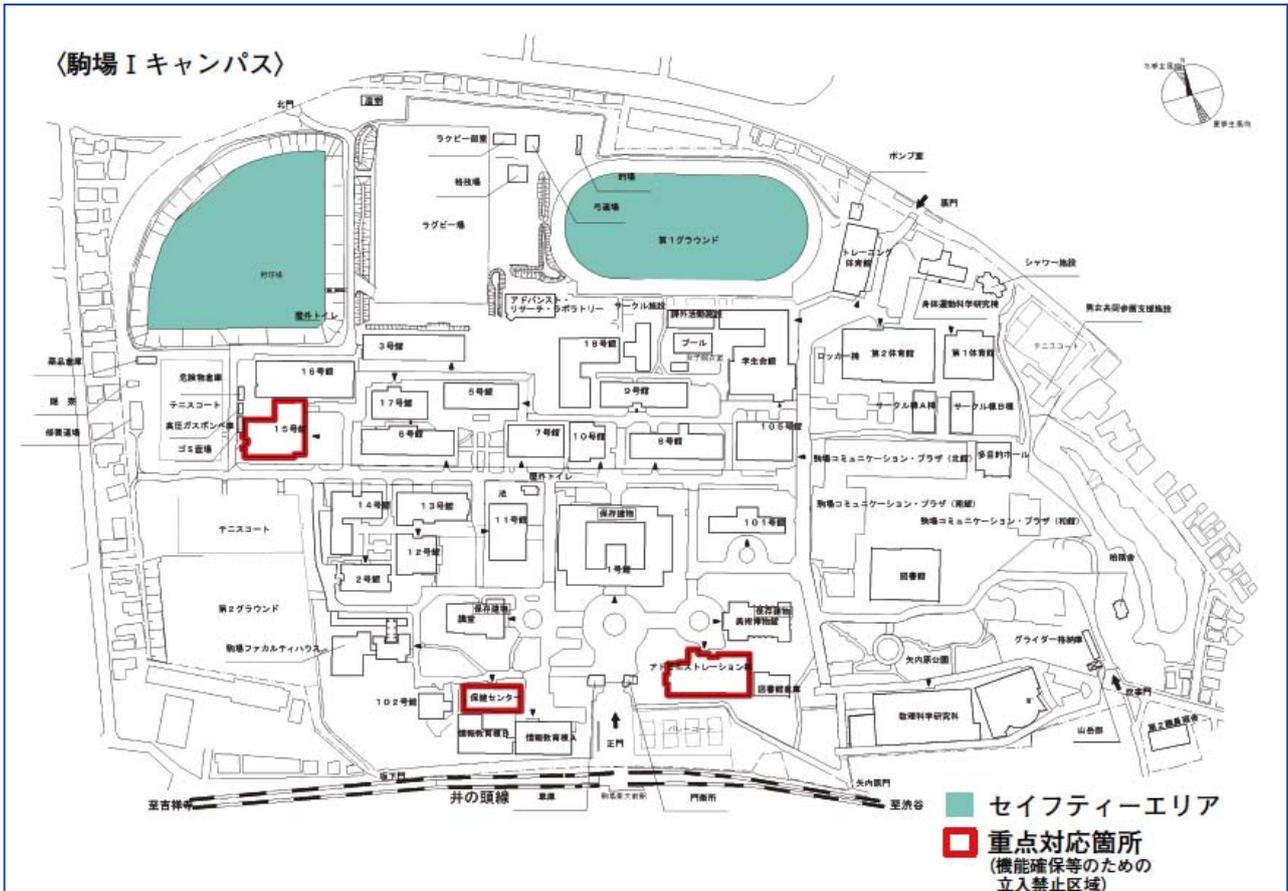
本書 第4章
p.030～ p.036
参照

- セイフティーエリア
- 車両ルート
(主として緊急物資輸送用)
- 重点対応箇所
(機能確保等のための立入禁止区域)
- ヘリポート
(行政機関からの防災ヘリコプター用)



市区町村長指定による広域避難場所

農学生命科学研究科附属農場（西東京市緑町）、農学生命科学研究科附属農場二宮果樹園（神奈川県二宮町）、検見川総合運動場（千葉市）





(一時) 避難所と広域避難場所の違い

(一時)避難所

震災時、被災者が一時的に避難する場所（小学校、中学校、公園等）のことです。地区行政によって対応が異なりますが、原則として食料・飲料水の備蓄、医療救護所・トイレの設置等の用意があります。

広域避難場所

震災時、火災延焼の拡大等によって、危険が迫った際に身の安全を守るための避難場所のことです。



広域避難場所のシンボルは、白地に緑の人の走る姿と場所を示す円で示されます！

広域避難場所のシンボル



地震発生時の一般的注意

身の安全

書棚、ロッカー等の転倒・落下に注意し、大きな机や柱の多い所で身の安全を図ること。

落下物への注意

ガラス、看板等落下物に注意する。あわてて外に飛びださないこと。

落ち着いた行動

テレビ、ラジオ、WEB等から正しい情報を入力し、冷静な行動をとること。

出口の確保

ドアを開け避難の出口を確保すること。

避難は徒歩で荷物は最小限に

自動車は利用せず大きな荷物は持たないこと。また、エレベータは使わないこと。

すばやく消火

火が発生したら協力して、小さいうちに消火すること。

安否確認

地区及び部局災害対策本部に安否の連絡をすること。

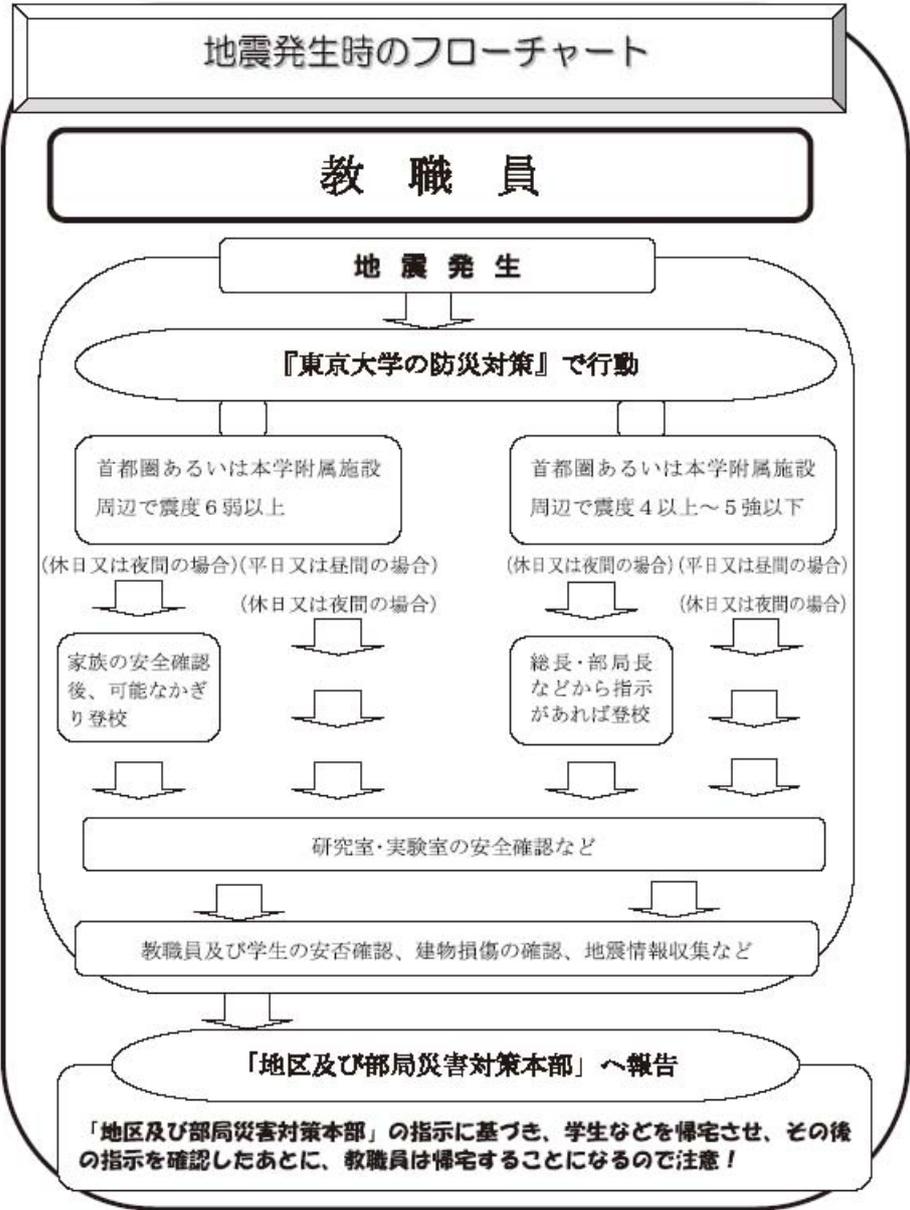
負傷者の救助

建物の被害状況を確認し、負傷者を発見したときは救助すること。

教職員・学生はどのように動くべきか？

本書 第5章
p.039 参照

「東京大学の防災対策」（平成19年度版）は各部局の防災担当に配布しています！



安否確認サービス・システム

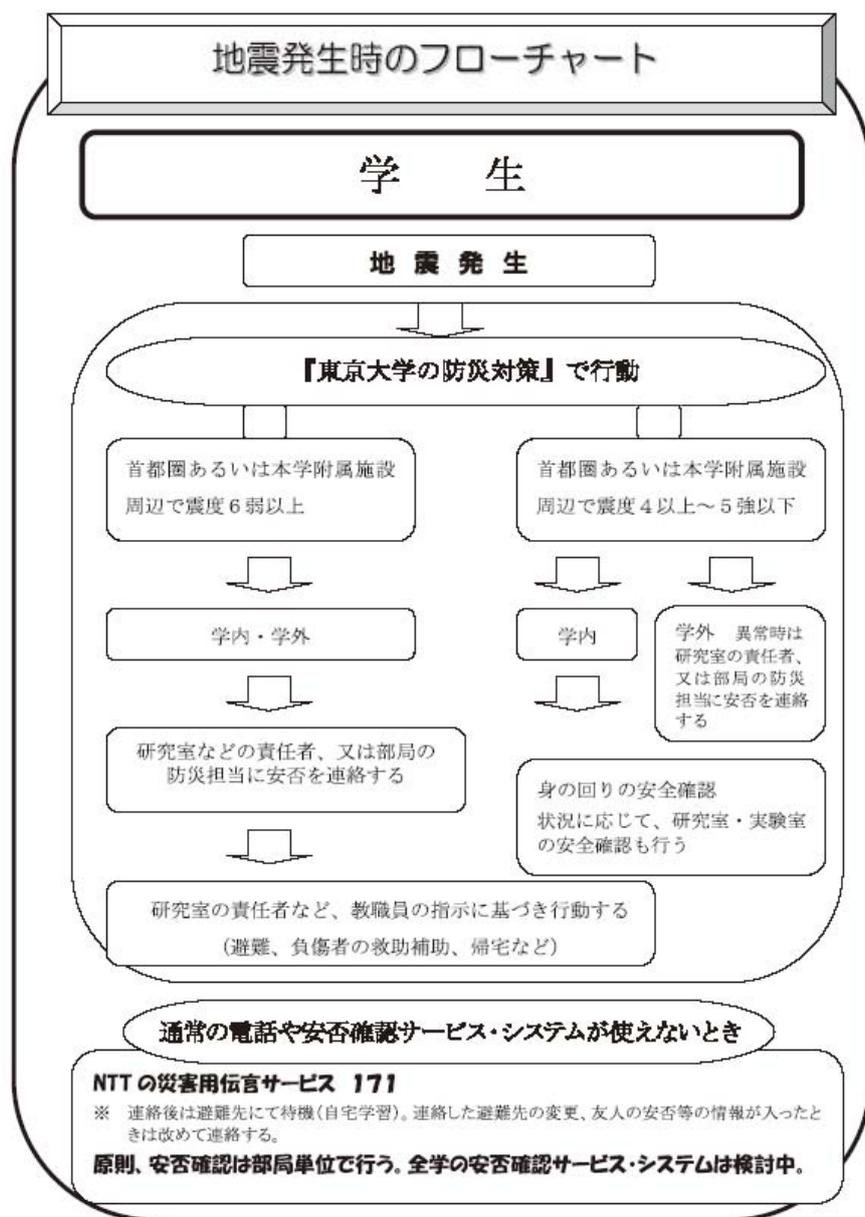
現在、環境安全本部では安否確認サービス・システムの本格的な導入を検討しています（平成20年6月、試験運用予定）。

試験運用への参加を希望される方は環境安全本部（内21051）までご連絡ください。

システムの概要図



※ 学生フローチャートについては平成20年度版「本郷の学生生活」及び「大学院便覧」にも掲載されています。



本書 第5章
p.040 参照

「東京大学の防災対策」(平成19年度版)は、ダイジェスト版の配布も予定しています♪



なお、本郷地区キャンパスでは、昼夜を問わず震度5以上の地震が発生した場合、正門、弥生門、農正門の各小扉を開門することにしています(龍岡門は常時開放です)☆

- 災害時の緊急連絡先**
(消防・警察関係 抜粋)
- | | |
|---------|--------------|
| 本郷消防署 | 03-3815-0119 |
| 本富士警察署 | 03-3818-0110 |
| 目黒消防署 | 03-3710-0119 |
| 目黒警察署 | 03-3710-0110 |
| 柏市消防本部 | 04-7133-0119 |
| 柏市旭町消防署 | 04-7144-6750 |
| 柏警察署 | 04-7133-0119 |

おわりに

地震は実際には起きてみないと分からないことも多く、防災対策どおりの対応では追いつかないことも多々あります。「東京大学の防災対策」(平成19年度版)に書かれた内容を踏まえて、実情を見直すとともに、本学構成員の防災意識の向上に役立ててください。

問い合わせ先：環境安全本部(担当：市村、内線21051)

NEWS

Erwin-Stein 賞受賞

浅島誠理事・副学長のエルヴィン・シュタイン賞受賞が決定いたしました。

浅島誠 理事・副学長

ドイツのエルヴィン・シュタイン財団は浅島誠本学理事・副学長（日本学術会議副会長）に2008年エルヴィン・シュタイン賞を贈呈した。授賞式は4月17日（木）に東京・赤坂のドイツ文化会館で行われた。エルヴィン・シュタイン財団は1991年3月にエルヴィン・シュタイン教授により設立された組織である。エルヴィン・シュタイン教授はヘッセン州憲法の産みの親であり、第二次世界大戦後のドイツ政治において卓越した人物で、政治家、裁判官、法学者としてドイツ社会に大きな影響をおよぼし、教養豊かで情熱的な民族主義者であった。また、異文化との出会い、国際交流に力を注いだ人でもあった。そして、エルヴィン・シュタイン賞は、社会の発展における科学技術の重要性を認識して、科学分野を含む広い分野を対象としている国際的な賞である。今年で18回目を迎え、これまで日本からは2件、単独での受賞は今回が初めてとなる。

今回の受賞タイトルは「脊椎動物の未分化細胞からの形づくりと臓器形成について」であり、浅島氏の実験発生学、器官形成学のこれまでの業績が高く評価された。浅島氏は1990年に胚誘導因子としてアクチビンを初めて同定し、以来両生類胚を用いて組織・器官誘導の研究、

最近ではマウスES細胞系を用いた膀胱の誘導系の開発など、発生学にとどまらず、再生科学の新しい分野を創設した。



一般ニュース

生命科学教育支援ネットワーク

第5回「東京大学の生命科学シンポジウム」開催される

一般

「東京大学の生命科学シンポジウム」は、今年で5回目を迎え、4月19日（土）に安田講堂で開催された。

本学では8研究科・5研究所で多岐にわたる生命科学の研究と教育が行われているが、その全容を一度に知ることは容易ではない。生命科学教育支援ネットワークでは、これらの13部局の横断的な連携を目指し、学内で行われている幅広い生命科学研究をお互いに知り、また将来、生命科学を志す学生や、一般の人々にまで広く伝えていくために、「東京大学の生命科学シンポジウム」を年一回のペースで開催している。今回も学内・学外問わず、700名を超える多くの参加者を迎え、安田講堂の2階席も多くの参加者で埋まった。

シンポジウムは、福田裕雄生命科学教育支援ネットワーク長の挨拶から始まり、生命科学教育支援ネットワーク参加の8研究科5研究所の代表が講演を行った。（プログラム別記）今回も、本学の生命科学研究の奥深さを感じる幅広い内容の演題がそろい、生命学者が自ら成果と意義を伝えることによって、研究の面白さや重要性により強いインパクトを与えていたようであった。

また、午後の部の冒頭に小宮山宏総長による「知識の構造化」と題する基調講演があり、最先端の生命科学の知識を構造化し、本学発の「生命科学」教科書3冊として発行したこれまでの試みと、生命科学に限らない今後の本学の教科書および教育の今後について紹介があった。最後に、生命科学教育支援ネットワークを長年にわたって牽引しておられる浅島誠理事・副学長の挨拶で閉会となった。



小宮山総長 基調講演「知識の構造化」

本シンポジウムの主旨のひとつは、進学振り分けや大学院進学をひかえる学内外の学生に対して、本学で行われている幅広い生命科学研究に関する情報を提供することである。そのために、生命科学教育支援ネットワーク参加の8研究科5研究所を紹介するブースを設置してパンフレットなど多くの資料を配布したが、用意された資料が無くなる盛況ぶりであった。今後もこのシンポジウムが本学の生命科学系研究者の情報交換、生命科学に興味を持つ学内外の大学生、大学院学生、さらには一般の方々への生命科学知識の提供の場として、発展して行くものと思われる。



部局紹介ブースの様子 (安田講堂)

最後に、御講演いただいた講演者の方々、開催の準備に尽力いただいた研究機構等支援グループの皆さん、医科学研究所の先生方、本学大学院生の皆さんに感謝申し上げる次第である。

当日の講演プログラムは、次のとおり。

プログラム：

10：00～10：05 開会の挨拶
 福田 裕穂 (生命科学教育支援ネットワーク長／理学系研究科教授)

<座長：竹井 祥郎／海洋研究所教授>
 10：05～10：25 「生命世界における右と左」
 黒田 玲子 (総合文化研究科教授)
 10：30～10：50 「パン酵母のかたち」
 大矢 禎一 (新領域創成科学研究科教授)
 10：55～11：15 「赤ちゃんの科学－生命・発達・脳」
 多賀 巖太郎 (教育学研究科教授)
 11：20～11：40 「匂い識別の分子機構」
 坂野 仁 (理学系研究科教授)
 11：45～12：05 「細胞はどのようにして癌になるか」
 秋山 徹 (分子細胞生物学研究所教授)

13：10～13：30 基調講演／小宮山 宏 (総長)

<座長：石浦 章一／総合文化研究科教授>
 13：30～13：50 「バイカルアザラシの謎に迫る！」

宮崎 信之 (海洋研究所教授)
 13：55～14：15 「自然界の炭素循環に学び、超えるバイオベースプラスチック」
 吉江 尚子 (生産技術研究所教授)
 14：20～14：40 「糖鎖による自他認識と免疫応答の制御」
 入村 達郎 (薬学系研究科教授)
 14：45～15：05 「幹細胞が拓く新しい医療」
 中内 啓光 (医科学研究所教授)

<座長：多羽田 哲也／分子細胞生物学研究所教授>
 15：35～15：55 「ケモカインによる免疫制御」
 松島 綱治 (医学系研究科教授)
 16：00～16：20 「高機能抗体作成と分子ターゲティング」
 浜窪 隆雄 (先端科学技術研究センター教授)
 16：25～16：45 「タンパク工学がひらく新しい免疫測定法への道」
 上田 宏 (工学系研究科教授)
 16：50～17：10 「トラフグのゲノム解読が魚類養殖を変える」
 鈴木 讓 (農学生命科学研究科教授)

17：15～17：20 閉会の挨拶
 浅島 誠 (理事・副学長)

生命科学教育支援ネットワークのホームページ (<http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/activities/biout2008/>) にて当日の様子や、要旨集 (PDF) がご覧いただけます。

東大一イェール・イニシアティブ

東大一イェール・イニシアティブシンポジウム開催される！

一般

東大一イェール・イニシアティブは4月25日(金)の9時から18時にかけて、アメリカのイェール大学内でシンポジウム “Mind, Brain, and Society: Neurocognitive Approaches to the Social Sciences” を開催した。

本シンポジウムは政治、経済といった社会科学の領域を、認知科学や脳科学といった他領域の視点から見ていくという新しい試みをテーマとし、東大一イェール・イニシアティブの派遣教員である、加藤淳子教授 (大学院法学政治学研究科) とイェール大学のマーヴィン・チャン教授 (心理学部) をオーガナイザーとして行われた。昨年9月にイェール大学内に設置された東大一イェール・イニシアティブにとっては2つ目の大きなイベント、イェール大学との交流から生まれた共同企画であった。

シンポジウムの冒頭では小宮山宏総長、続いてイェール大学のリチャード・レヴィン学長からそれぞれ開会挨拶

拶があり、「政治学と認知科学」「経済学と脳科学」「行動経済学と認知科学」の3パネルと続いた。会場には約50名が参加し、各パネルの後の質疑応答の時間では講演者と来場者の中で活発な意見交換が交わされた。

参考：東大—イェール・イニシアティブのホームページ
http://www.yale.edu/tyi/index_jp.html



シンポジウムの様子

部局 ニュース

社会科学研究所

バリアフリー対応型トイレ竣工

社会科学研究所では、バリアフリー対応型トイレの新設工事が竣工し、そのお披露目会を行った。

このバリアフリー対応型トイレは、車椅子のほか透析などをされている方にも利用いただける構造になっている。

本研究所は、各種セミナー・研究会等の開催が多く、その参加者として学外から多数の研究者・学生の来訪がある。また、学内外からの図書室の利用も活発である。来訪される方々の中に身体に障害をもった方等が見受けられたこともあり、また、福祉国家研究の実績をもつ研究所という観点からも、バリアフリー環境の整備は長年の懸案事項であった。

本研究所では、過年度、一部教員からの寄附を含む所内教員の理解と協力のもと、自助努力により車椅子用スロープを設置し、地下1階フロアに車椅子による入館

を可能とした。しかし、館内にはバリアフリー対応型のトイレが整備されていなかったことから、当該スロープを十分に活用する環境にはなかった。

このようなことから本研究所は、スロープの設置に続くバリアフリー化の取り組みとして、バリアフリー対応型トイレの設置を強く望んでいたところ、このほど本部の支援を得て実現にいたったものである。利用していただく場合は、本研究所正面玄関に向かって左手にあるスロープを下り、地下からの入り口（自動扉のそば）にあるプザーで事務室を呼んでいただく、という形になっている。

バリアフリーへの対応については、全学に先駆けて本研究所のホームページに「バリアフリーマップ」を掲載するなど、研究所をあげて取り組んでおり、積極的に推進している。



小森田所長（左から3人目）を囲む関係者等



バリアフリー対応型トイレの内部

分子細胞生物学研究所

平成19年度分生研技術発表会を開催

3月5日(水)、分生研本館1階会議室において平成19年度「分子細胞生物学研究所技術発表会」が行なわれた。現在、分生研には10名の技術職員が所属し、それぞれが異なる研究分野において様々な職務に従事している。本会は、日頃担っている仕事、役割について、またそれらに対

課程にはメディア文化論などの科目は設置されていたものの、開講数は限られていた。

本講座は国際ジャーナリズムに関心を抱く学生のニーズに応えるために、4月より客員教授として、世界的に活躍するジャーナリストに授与されるボーン・上田賞の受賞者であり、読売新聞国際問題編集委員でもある伊熊幹雄氏を迎えた。伊熊教授が担当する前期課程の国際ジャーナリズムの授業には、初回から400名以上の学生が殺到し、教室変更を余儀なくされるほどの盛況ぶりとなった。後期課程の授業にも国際関係論やメディア論に関心を持つ学生が多く集まり、モスクワ、ワルシャワ、ワシントンなどでジャーナリストとして活躍してきた伊熊教授の話に熱心に耳を傾けた。

国際ジャーナリズム寄付講座には、教養学部から山内昌之教授と矢口祐人准教授が協力教員として参加しており、学生の関心と理解を一層深めるために、今後は授業のみならず、グローバルな時事問題に関するシンポジウムや講演会なども開催していく予定である。

大学院総合文化研究科・教養学部

教養学部正門復元竣工記念式典、開催される

部局

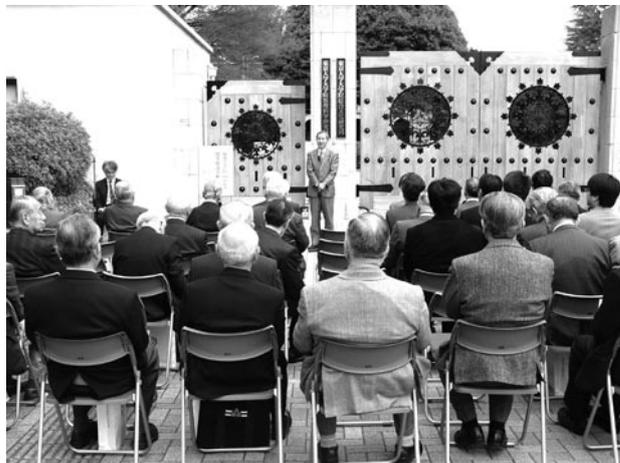
教養学部正門の門扉は、1938年頃の設置以来、学部の顔として長い間親しまれてきたが、長年の風雨と開閉の振動などから老朽化が著しかった。このため教養学部では、一高・東京同窓会をはじめ多方面からの寄附を得て門扉の復元をすすめ、3月24日（月）に竣工をしたことをうけて、4月4日（金）に竣工披露式典を行った。

今回の復元は図面が存在しなかったため、取り外した門扉を分解して部品を採寸し、これを元に新たに部品を制作して組み立てるという宮大工の手法ですすめられた。素材には木曽檜が用いられ、仕上げには柿渋を塗って色を落ち着かせた。校章については傷みが激しく再利用できなかつたため、型をとってアルミダイキャストで新たに作成している。（旧校章は駒場博物館で保存・展示する予定である。）

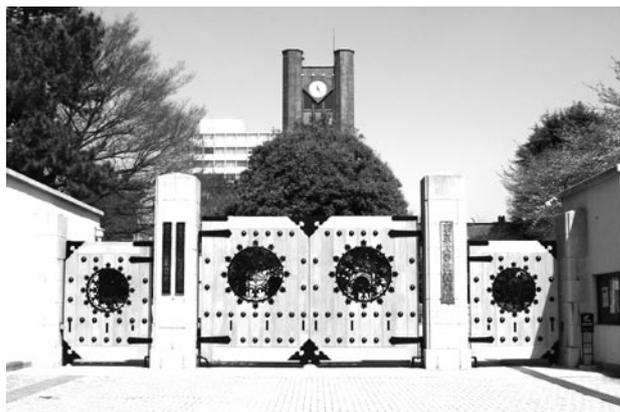
当日はさいわい天候にも恵まれ、式典は青空の下、正門前広場脇のスペースで10時30分より行われた。小島憲道研究科長の挨拶に続き、一高同窓会の若井恒雄理事長からいただいた式辞の中では、往時は寮生がかならず正門を通して入構しなくてはならないとする「正門主義」があったことや、そのため門限を過ぎて帰ってきた学生が門をよじのぼる姿が見られたといった興味深いエピソードを聞くことができた。後半は銘板の取付けや記念撮影なども行われ、約30分のセレモニー終了後には簡単な昼食会も催された。

今回式典の開催にあたっては、自動車の入構を一時制限する必要があり、またオリエンテーションに出発する新生の集合場所の変更など調整を要する点もあつ

たが、関係各方面のご協力を得て滞りなく進めることができたことに改めて御礼申し上げたい。なお、旧門扉の傷みの原因として、近年自動車の通行に際し頻繁に開閉が行われるようになったことが考えられることから、新門扉については開門時間を延長し、できるだけ開閉が少なくなるよう運用ポリシーを見直したことを付記しておく。



式典の様子



完成した正門



取り付け風景

生産技術研究所

「水の知」(サントリー) 総括寄付講座を設置

部局

4月7日(月)、「水の知」(サントリー) 総括寄付講座の設置に関する臨時記者会見がサントリーホール(東京都港区赤坂)にて行われた。サントリー株式会社からは佐治信忠社長と小嶋幸次取締役が、本学からは小宮山宏総長と沖大幹教授(生産技術研究所)が登壇した会見には、新聞、テレビ、雑誌などの各メディアから合計46社65名が出席した。7月4日(金)に安田講堂での開催が計画されている「『水の知』(サントリー) 総括寄付講座シンポジウム」の告知で会見は締めくくられた。その後、4名の登壇者に対する個別取材が行われた。報道陣からの質問には、寄附金額や実施体制に関するものに加えて、本学の水問題に対する教育研究への取り組み姿勢に関するものもあり、水問題解決の重要性が広く認知され始めていることがうかがわれた。

本寄付講座は、2005年に発足した水に関する本学の研究者による分野横断的な組織である研究連携ユニット「東大水フォーラム」を母体としている。本寄付講座の設置が「東大水フォーラム」の活動を一層活発にするとともに、世界の水問題解決に向けた「水の知」の体系化や次世代の人材育成に資するものと期待されている。

サントリー株式会社からは5年総額4億円が寄附される予定であり、本学総括寄付講座への寄附金総額では史上最高額となる。本寄付金の半分は東大基金に振り向けられ、残りの半分が生産技術研究所、工学系研究科、新領域創成科学研究科に配分され「水の知」の形成に直接取り組む3名の特任教員による研究教育活動に利用される予定である。

なお、本寄付講座の実現は、本学渉外本部をはじめとする皆様の多大なご尽力の賜物である。末尾ながら、関係各位に心より感謝を申し上げる次第である。



左から沖教授、小宮山総長、佐治社長、小嶋取締役

大学院工学系研究科・工学部

「失敗体験研修」が行われる

部局

4月15日(火)、失敗学会(会長:畑村洋太郎 本学名誉教授)の分科会の一つである「失敗体験ネットワーク」と共催で、「失敗体験研修」を開催した。この研修は、体験型安全研修とクライシス・コミュニケーションに関する講演の二部構成である。

第一部の体験型安全研修は、回転体、高所・重量物運搬、電気の危険を実際に体感することにより、安全に対する感性を高めることを目的としたものである。研修指導は住金マネジメント株式会社により工学部8号館ピロティで実施され、工学系等の教職員や大学院生など30名が参加した。巻き込まれ危険、安全帯衝撃、重量物運搬腰痛危険、静電気による危険、トラッキング現象による発火など、合計18事例を約2時間かけて体感した。

研修受講者の感想で特に多かったのは、トラッキング現象に関するものであった。トラッキング現象は、コンセントの挿し込み口に埃がたまり自然に発火する現象であり、多くの火災の原因になっている。実験室・研究室はもちろん、家庭にも危険があることを体感した。

体験型安全研修の終了後、失敗体験ネットワークの宇於崎裕美さんによる、クライシス・コミュニケーションに関する講演が工学部11号館で行われた。事故発生時のマスコミ対応を中心として、危機管理広報のありかたについて、最近の事象事例を交えながら講演された。



体験型安全研修に参加する畑村先生



安全帯の衝撃を体感する参加者



電気の危険を体感する参加者

大学院薬学系研究科・薬学部

東京大学薬学部創立 50 周年記念式典
が開催される

薬学部は、1958年（昭和33年）4月1日に医学部から薬学科が分離され、薬学部薬学科となることで創立され、本年でちょうど50周年を迎えた。これを記念し、4月25日（金）14時より、帝国ホテル本館3階「富士の間」において、東京大学薬学部創立50周年記念式典が開催された。当日は、天候にも恵まれ、当初の予想を超える約300名の名誉教授をはじめとするOB、関係省庁や製薬企業関係者などの参加者を集め、会場は満員となった。



記念式典には約300名の参加者があった



金澤日本学術会議会長による記念講演

式典は、杉山雄一薬学系研究科長・薬学部長の開会挨拶に始まり、浅島誠理事・副学長、清水潔文部科学省高

等教育局長、高橋直人厚生労働省医薬食品局長、照井恵光経済産業省製造産業局次長、柴田承二東京大学名誉教授、飯野正光東京大学医学系研究科副研究科長、庄田隆日本製薬工業協会副会長、児玉孝日本薬剤師会会長、堀内龍也日本病院薬剤師会会長、長野哲雄日本薬学会会頭の順に来賓から祝辞が述べられた。引き続いて、記念講演会が催され、金澤一郎日本学術会議会長による「日本の医療を支える医学と薬学」ならびに柴崎正勝前薬学系研究科長・薬学部長による「21世紀の医薬品合成」の講演が行われた。

この後、17時30分より本館2階「孔雀西の間」に場所を移して祝賀パーティーが行われた。350人は優に入る広い会場であったが、超満員で立錫の余地もない盛況であった。改めて杉山研究科長の挨拶に始まり、薬学部の歴史や現況に関するスライドショーの流れる中、祝賀パーティーも大いに盛り上がり、20時頃、盛会の裡に終了した。



浅島理事・副学長による挨拶

生産技術研究所

千葉実験所における快適性評価の研究成果 実用化

生産技術研究所千葉実験所における大型実験設備である、実物大鉄道車両モックアップを用いた快適性評価に関する研究成果が、この度、東京急行電鉄の新型車両7000系（池上・多摩川線用）の座席配置に採用された。



東急7000系

生産技術研究所では分野融合研究のためのグループ研究「快適性の工学的応用に関する研究グループ」を進めており、代表を務める千葉実験所長の須田義大教授らに

よる通勤電車を対象とした、乗降容易性と車内での着席性・居住性を考慮した快適性を両立させる評価手法を構築してきた。本手法は乗車時間に応じて快適性を評価しようという試みで、環境心理学におけるアフォーダンス理論を考慮したものであり、この成果を取入れた国内初の座席配置が実現した。須田教授もゲストとして出席した東急モニター会議における沿線利用者の意見も反映され実用化したものであり、千葉実験所における大型実験設備を用いた実証評価実験の成果が社会に還元された一例といえる。



7000系車内で実用化された座席配置



千葉実験所で行われたモックアップ被験者実験

キャンパス ニュース



キャンパス

本部入試グループ

平成20年度入学者数決まる

平成20年度新入生の人数は、次のとおりである。

科 類	入学定員	合 格 者 数			入 学 辞退者数	入学者数		定員外の入学者数		入学者 総 数
		一般選抜	特別選考 (第2種)	合 計		前期 等	後期	国費留 学生等	特別選考 (第1種)	
文科一類	2,953 (3,053)	401 (415)	8 (7)	409 (422)	0 (0)	409 (422)	26	5 (3)	0 (1)	440 (426)
文科二類		354 (366)	4 (5)	358 (371)	0 (0)	358 (371)	5	3 (3)	4 (5)	370 (379)
文科三類		479 (488)	4 (3)	483 (491)	2 (0)	481 (491)	2	7 (6)	1 (2)	491 (499)
理科一類		1,129 (1,170)	4 (3)	1,133 (1,173)	5 (5)	1,128 (1,168)	37	26 (16)	4 (4)	1,195 (1,188)
理科二類		547 (568)	2 (4)	549 (572)	4 (9)	545 (563)	27	2 (3)	3 (2)	577 (568)
理科三類		90 (90)	0 (0)	90 (90)	0 (0)	90 (90)		0 (0)	0 (0)	90 (90)
全 科 類	100	100		100	3					
合 計	3,053 (3,053)	3,100 (3,097)	22 (22)	3,122 (3,119)	14 (14)	3,011 (3,105)	97	43 (31)	12 (14)	3,163 (3,150)

(注) 1. ()内は、昨年度を示す。

2. 国費留学生等の人数には、国費留学生の他に政府派遣留学生、日韓共同理工系学部留学生を含む。



教養学部（前期課程）から専門分野へ進学しようとする学生に対し、進学に関する諸問題について個人的な指導や相談にあたる今年度の進学指導担当教員は、次のとおりである。

平成20年度進学指導担当教員名簿 平成20年4月現在

学部	進学指導担当学科	職名	氏名	連絡先（内線）
法	全類	教授	日比野 勤	23257
医	医学科	教授	栗原 裕基	23495
	健康科学・看護学科	教授	真田 弘美	23419
工	社会基盤学科	准教授	石田 哲也	26102
	建築学科	教授	西出 和彦	26168
	都市工学科	准教授	窪田 亜矢	21845
	機械工学科	教授	丸山 茂夫	26421
	産業機械工学科			
	機械情報工学科			
	航空宇宙工学科	教授	李家 賢一	26595
	精密工学科	教授	樋口 俊郎	26449
	電子情報工学科	教授 准教授	森川 博之 池田 誠	26726 26661
	電気工学科			
	電子工学科			
	物理工学科	教授	市川 昌和	27901
	計数工学科	教授	杉原 正顯	26955
		教授	安藤 繁	26925
	マテリアル工学科	教授	小関 敏彦	27110
	応用化学科	准教授	河野 正規	27204
	化学システム工学科	教授	大久保 達也	27348
	化学生命工学科	教授	小宮 山真	55200
	システム創成学科	准教授	福井 勝則	27065
	文	全学科	准教授	唐澤 かおり
理	数学科	准教授	志甫 淳	48333
	情報科学科	教授	辻井 潤一	24098
	物理学科	教授	佐野 雅己	24188
	天文学科	教授	柴橋 博資	24256
	地球惑星物理学科	准教授	小池 真	24595
	地球惑星環境学科	教授	茅根 創	24573
	化学科	教授	川島 隆幸	24338
	生物化学科	教授	飯野 雄一	23033
	生物学科（動物学）	准教授	越田 澄人	24433
	生物学科（植物学）	教授	寺島 一郎	24465
	生物学科（人類学）	講師	井原 泰雄	24483
	生物情報科学科	准教授	程久 美子	23043

応用生命科学課程				
農	生命化学・工学専修	講 師	石 神 健	25120
		准教授	足 立 博 之	28139
	応用生物学専修	准教授	石 川 幸 男	21851
	森林生物学専修	准教授	松 下 範 久	25226
	水圏生命科学専修	教 授	金 子 豊 二	25286
	動物生命システム科学専修	准教授	高 橋 伸 一 郎	21310
	生物素材化学専修	教 授	松 本 雄 二	28879
	環境資源科学課程			
	緑地生物学専修	准教授	大 黒 俊 哉	25049
	森林環境資源科学専修	教 授	永 田 信	25203
	水圏生産環境科学専修	教 授	古 谷 研	25293
	木質構造科学専修	准教授	信 田 聡	25251
	生物・環境工学専修	教 授	大 下 誠 一	25362
	農業・資源経済学専修	教 授	松 本 武 祝	25321
フィールド科学専修	准教授	大 黒 俊 哉	25049	
国際開発農学専修	教 授	鈴 木 宣 弘	27533	
獣医学課程				
獣医学専修	准教授	内 田 和 幸	25410	
経	全学科	准教授	大 橋 弘	25511
養	超域文化科学科	教 授	高 橋 宗 五	46347
	地域文化研究学科	准教授	井 坂 理 穂	46227
	総合社会科学科	教 授	中 西 徹	46462
	基礎科学科	准教授	前 田 京 剛	46747
	広域科学科	教 授	加 藤 道 夫	46678
	生命・認知科学科	准教授	松 田 良 一	46637
育	総合教育科学科	教 授	市 川 伸 一	23947
薬	全学科	教 授	堅 田 利 明	24750

備考：連絡先電話番号

本郷（ダイヤルイン） 5 8 4 1 - （頭に2のつく内線番号の下4ケタ）
 駒場（ダイヤルイン） 5 4 5 4 - （上2ケタが46の内線番号の下4ケタ）
 駒場・数理（ダイヤルイン） 5 4 6 5 - （上2ケタが48の内線番号の下4ケタ）
 駒場Ⅱ・先端研（ダイヤルイン） 5 4 5 2 - （頭に5のつく内線番号の下4ケタ）
 例）内線2〇〇〇〇の場合 → 5 8 4 1 - 〇〇〇〇

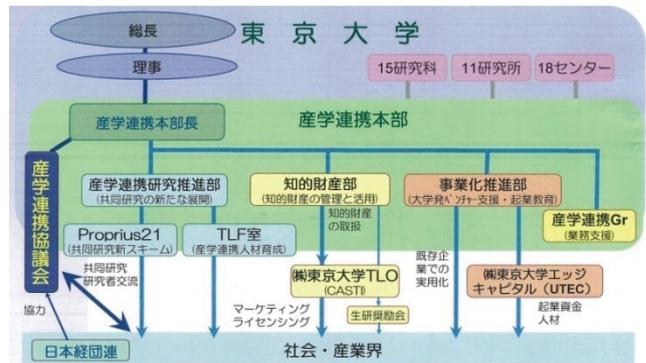
CCRよりテクノロジー・リエゾン・フェロー研修制度、産学連携提案公開を継承

産学連携本部は、国立大学が法人化した2004年4月に発足し基盤整備をほぼ終え、本格的な活動を開始しております。当本部は、産学連携本部長のもと3部（産学連携研究推進部・知的財産部・事業化推進部）と1つ（産学連携グループ）の業務支援グループで構成されており、(株)東京大学TLO (CASTI) と(株)東京大学エッジキャピタル (UTECH) の2つの株式会社と緊密な三者連携を持ち、東京大学全キャンパスの産学連携を推進しているところです。

今年度3月に、駒場Ⅱキャンパスの国際・産学共同研究センター (CCR) が発展的解散するに際し、テクノロジー・リエゾン・フェロー (TLF) 研修制度と、CCR-DB業務を当本部が承継しました。TLF研修は、自治体等の職員を対象に地域振興のための産学連携人材育成研修制度です。CCR-DBを改称した産学連携プロポーザル (UCR-Proposal)は東京大学研究者へのインタビューをもとに具体的に産学連携の提案にまとめ、web上で公開し産学連携の契機を作ることとを目的としております。新装webページは【産学連携-プロポーザル】【検索】でご覧になれます。これまで1800件以上の提案が掲載されていますが、新規と更新のために、年間400名近くの研究者をProprius21プログラムオフィサーとTLFが訪問させていただきます。今まで以上に、産学連携本部から、研究者への訪問が増してきますのでよりよろしくお願いいたします。

別途、共同研究をお考えの方には、簡単な趣意書をもとに「共同研究提案会」「シーズ実用化提案会」「プロジェクト提案会」を東京大学産学連携協議会会員の560以上の企業に通知して産学連携本部等で、2時間程度の提案会を常時・随時開催し、最適な企業パートナーの探索にご協力します。学内イベントを産業界へ周知をご希望の場合は、【DUCR イベント】【検索】の「イベント情報掲載受付」より入力してくださいと、企業へ周知します。

新しい支援機能をご活用ください!



東京大学産学連携プロポーザルのwebページ(上)、TLF研修制度継承後の産学連携本部の新組織図(下)。

「企業・大学発ベンチャーセミナー」が新たにスタート(4月21日(月))! 第4期アントレプレナー道場がいよいよ開講(4月23日(水))!



郷治友孝氏(株)東京大学エッジキャピタル社長の講演後、セミナー出席者と活発な意見交換が行われた。

4月21日(月)18時より産学連携プラザにて、第1回「起業・大学発ベンチャーセミナー」が開催されました。このセミナーは、ベンチャー経営者や大学発ベンチャー支援を行っている大学関係者・学外専門家等の、大学発ベンチャーに係る実務者を主な対象としたもので、大学発ベンチャーを取り巻く問題を共有化し、その解決のための実務上の処方箋を議論する場として位置付けられています。

第1回目は、「東京大学におけるベンチャー育成の現状と課題」と題して各務茂夫(産学連携本部 教授・事業化推進部長)による問題提起の後、「東京大学エッジキャピタル (UTECH) の取り組み」について郷治友孝氏(株)東京大学エッジキャピタル社長)から投資実績等について具体的事例をあげて説明がありました。講演後、50名弱のセミナー出席者との活発な質疑応答がありました。

4月23日(水)19時より、第4期「東京大学アントレプレナー道場(学生起業家育成プログラム)」の初級第1回勉強会が行われました。6か月間の長丁場の「起業塾」が今年もいよいよスタートしました。

連絡先:産学連携本部 (本部産学連携グループ) 内線22857
(外線03-5841-2857)WEBページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR 検索





ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No. 6



パソコンからも東大ナビ！



東大ナビ携帯サイトをパソコンから閲覧したスクリーンショット

昨年度末より、東大ナビは携帯電話からだけでなくパソコンからもお使い頂けるようになりました。

- メールマガジンの登録
パソコンよりmail@utnav.jpへ空メールを送ることで、パソコン用のメールアドレスを、東大ナビに登録可能です。メルマガ会員専用クーポンをご利用の方は、お手数ですがメールをプリントアウトしてお持ち下さい。
- 携帯サイトの閲覧
パソコンのブラウザより<http://utnav.jp>にアクセス頂くとパソコンで携帯サイトを見ることができます。

加えてPHSからのご利用・ご登録も可能となっています。皆様のご都合のよい環境より、東大ナビをご利用下さい！



「東大人」公開中！

東大ナビでは携帯サイトにて、学内外で活躍する学生にスポットを当てた特集「東大人」を隔週で連載しています。今後も学内の様々なお勧め情報を掲載していく予定です。どうぞご期待下さい！



東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください！



イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに空メール送信！

- この記事のQRコードから
- mail@utnav.jp宛てにメール送信
- 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能

返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など

登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET！



イベントを宣伝したい方

教育企画室TREEオフィスまで！

- 内線；27823（重田）
- メール；info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス；本郷キャンパス 第二本部棟401号室

ワタシのオシゴト / 第27回

Rings around the UT

柏図書館 資料サービス係

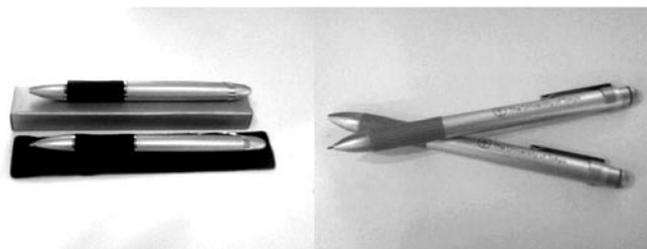
渡来 恵美さん

コミュニケーションセンターだより No.47

■新商品のご案内

■「新シャープペンシル・新ボールペン」

お待たせ致しました！新たなデザインで販売を開始しました！シャープペンシルは、程よい重さでシャープな芯先が特徴です。ボールペンは、重厚感あふれるデザイン！おしゃれな箱入りですのでプレゼントにもぴったりです！！是非一度実物をお手に取ってご覧下さい。



●ボールペン：700円（税込） ●シャープペンシル：500円（税込）

■「鳥学大全」

3月15日（土）～5月18日（日）まで総合研究博物館で行われていた創立130周年記念展示「鳥のピオソフィア～山階コレクションへの誘い～」の図録「鳥学大全」を販売しております！厚さ約10センチのボリュームある一冊です。



●鳥学大全：9,975円（税込）

■「入学式出店報告」

4月11日（金）、今年で3度目となる入学式での出店を行って参りました！

今年は初めて午前・午後の2回式が行われ、沢山の新生、ご家族の方にテントを訪れていただき、大変に賑わいました。お立ち寄り下さった皆様ありがとうございました。

■「お知らせ」

コミュニケーションセンター次回のイベントは、5月24日（土）・25日（日）の五月祭です！特別ブースの設営や、東大サプリメント開発者大谷勝先生のトークイベントなどの企画を準備中です！！お楽しみに！！

（担当：コミュニケーションセンター 吉岡）



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

柏図書館へようこそ！



グルメ情報を検索...もとカウンターにてお仕事中

東大に採用されては十余年、柏図書館に配属されて約1年になります。新しくきれいな図書館で、少数ながら頼もしいメンバーに囲まれて楽しく仕事をしています。柏キャンパスは静かで広々としていて草花が生い茂り、つがいのキジも訪れて心を和ませてくれます。ランチの選択肢が少ないのが難ですが...

現在は主に図書の収集・整理業務を担当しています。柏キャンパスの拠点図書館として多くの図書を受け入れているので、様々な資料を扱うことができとても勉強になります。カウンターに出たときに自分が扱った図書が借りられると嬉しくなります。皆さんぜひ図書館に来てたくさん本を借りてください。DVDもありますよー。

図書館のホールでは映画上映会なども開催しています。2月に行われたコンサートは盛況で演奏者や聴衆の方々や心地よい時間を共有することができました。これからもイベントを企画していますので、ぜひ柏図書館に足を運んでください。



柏名物・自動化書庫の前で図書館の皆さんと

得意ワザ：バイクングでお皿に美しく盛り付けること

自分の性格：几帳面かつマイペース

次回執筆者のご指名：前田朗さん

次回執筆者との関係：もと理学部の図書室仲間

一言紹介：PCやネットワークに強くてとても頼りになります。

＝ 特集テーマ&執筆部署募集告知＝

特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。
(締切日の3週間前位までに一度ご相談ください)

② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はWordファイルでご制作下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報の切日の数日前を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ニュースページ、 インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんから送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部署の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 締切日

本学HPの右下にある「学内広報アイコン」をクリックして発行スケジュールをご確認ください。

3. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、jpeg等の形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合、プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合は、この限りではない）。
- ② 原稿のはじめに担当部署名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

- ① 句読点は「、」「。」を用いること（「，」「。」は用いない）。
- ② 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ③ この他、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とする等、表記統一のための修正を編集段階で行う。

※編集スケジュールの都合上、原則として校正はできません。基本的にはいただいた原稿がそのまま掲載されますので、内容に間違いのないよう、十分ご注意ください。

4. 問い合わせ先・提出先

本部広報グループ 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院農学生命科学研究科・農学部

第34回東京大学農学部公開セミナー

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第34回 東京大学農学部公開セミナー
『農学を創った人、農学が創ったもの』

司 会：水圏生物科学専攻 山川 卓 准教授

「農学が生んだ国際的研究者、鈴木梅太郎
－博士のビタミン研究が遺したもの－」
応用生命化学専攻 清水 誠 教授
「農協の形成と発展をめぐるいくつかの学説の紹介
－現在の農協問題を理解するために－」
農業・資源経済学専攻 萬木 孝雄 准教授
パネルディスカッション
農学を創った人、農学が創ったもの

日 時：6月14日（土）13:30～16:30

場 所：東京大学弥生講堂・一条ホール
東京都文京区弥生 1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分

対 象：一般（どなたでも参加できます）

定 員：300名（当日先着順）

参加費：無 料

問合せ先：東京大学農学系総務課 総務チーム
総務・広報情報担当

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

電話 03-5841-5484, 8179

mail koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

※ 受講証を発行いたします。

ご希望の方は、120円切手をご持参の上、当日受付でお申込ください。

主 催：大学院農学生命科学研究科・農学部

共 催：（財）農学会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

ナノフォトニクス研究センター開設記念「ナノフォトニクス総合的展開2008」シンポジウム開催のお知らせ

本年4月に工学系研究科総合研究機構に「ナノフォトニクス研究センター」が開設いたしました。本シンポジウムは、センターの開設を記念し、センターのコアメンバーより最先端の研究をご紹介させていただくとともに、平成18年度より経産省・NEDOが立ち上げた施策であるNEDO特別講座「ナノフォトニクス総合的展開」での産学連携研究の成果を含めて、ナノフォトニクスの最新の研究状況をご報告いたします。

日時：7月2日（水）

13時～18時（開場12時30分）

会場：本学武田先端知ビル5F「武田ホール」

参加費：無料

参加申し込み方法：問い合わせ先のホームページを参照

<プログラム>

【開会挨拶】 保立 和夫（東京大学工学系研究科長）

【来賓公演】 経済産業省、NEDO

【基調講演】

・ナノフォトニクスの最近の進展

大津 元一（東京大学）

【ナノフォトニクス研究センター特別講演】

・スピントロニクスから見たナノ領域の光と電子

田中 雅明（東京大学）

・ナノフォトニクス・・・材料、生命、情報の接点

田畑 仁（東京大学）

・先端微細加工プロセス

杉山 正和（東京大学）

・ナノチューブにおける電子と光の相互作用

加藤 雄一郎（東京大学）

【ナノフォトニクス最新研究報告】

・ナノフォトニックデバイスと加工

八井 崇（東京大学）

【産学連携研究紹介】

- ・ ナノフォトニクスによる波長変換とその応用
藤原 弘康 (浜松ホトニクス (株))
- ・ ナノフォトニクスによる光学素子の超平坦化
平田 和也 (シグマ光機 (株))

【インタラクティブセッション (於ホワイエ)】

- ・ ナノフォトニクス分野別個別相談会
- ・ 最新ナノフォトニクス、将来展望など意見交換

問い合わせ先：

ナノフォトニクス研究センター
ナノフォトニクス総合的展開シンポジウム 2008 事務局
TEL: 03-5841-1670 FAX: 03-5841-1140
Email: symposium2008@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp
URL <http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/jpn/nedo/symposium/>

お知らせ

お知らせ

保健センター

百日咳が流行しています

4月に入り学内で百日咳の流行が見られます。成人の百日咳は、咳のみが長く続き、発熱や全身状態の悪化等はないことが多いと言われています。しかし、適切な治療が行われないと人に伝染させうる状態が長期間続きます。特にワクチン接種前の乳児に感染すると重篤化することがあります。

学内での蔓延を防ぐために以下のことにご協力お願いいたします。

1. 咳が出ている方はなるべく早めに医療機関（内科、呼吸器内科、感染症科など）を受診し、職場あるいは学校内で百日咳の患者が出ていることを告げて診察・治療を受けて下さい。特に身近に百日咳の患者が出た場合には、接触して7～10日前後にご自分に咳症状がでましたら、早急に治療を受ける方がよいと考えられます。
2. 咳が出ている間はマスクの着用をお願い致します。
3. 学校保健法により、百日咳に罹患した学生は、「特有の咳が消失するまで」あるいは「病状により伝染のおそれがないと認められたとき」まで登校停止を要します。
これは教職員の方には適用されませんが、教職員の方についても感染防止に充分ご配慮下さい。詳しく

は医師にご確認下さい。

4. 有効な抗生物質投与が開始されて5日以上経過し、咳もおさまってきていれば伝染性は無くなっていると考えられますが、完全に治癒させるには10～14日間の抗生物質の内服が必要とされています。伝染性の有無や治療期間については医師の判断が必要ですので、診療を受けた医療機関にお問い合わせ下さい。

問い合わせ 東京大学 保健センター
駒場支所 内科 (内線) 46168
本郷支所 内科 (内線) 22583
柏支所 内科 (内線) 63040

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第511 (5月7日) 号の発行 —教員による、学生のための学内新聞—

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第511号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

倉田博史：新入生向け簡易統計定規を配布中
並木頼寿：北京オリンピックと中国の苦悩
向井千夏：〈時に沿って〉駒場→アメリカNY→駒場

〈後期課程案内〉

高橋宗五：超域文化科学科——軸足をどこに置くかを決めて広く学び、時には深くそして越境も
石田勇治：地域文化研究学科——対象地域の言語を駆使し、学際的地域研究の現場へ踏み込もう
中西 徹：総合社会科学科——現代社会を複眼的視角から考えよう！
小宮山進：基礎科学科——新しい分野を切り拓く勇気を
山口 泰：広域科学科——現代社会の諸問題に向かって
村田昌之：生命・認知科学科——駒場発の独創的な生命科学の潮流を創る

〈本郷各学部案内〉

新田一郎：法学部——法学部でいかに学ぶか
清水孝雄：医学部——医学部に進学するみなさんへ
北森武彦：工学部——科学技術立国を支える若き皆さんへ
小佐野重利：文学部——文学部で人文学の「美食家」になろう
伊藤元重：経済学部——経済学とはどのような学問であろうか
金子元久：教育学部——「考える力」としての教育学
山本正幸：理学部——理学部からのメッセージ 2008

太田明徳：農学部——生きものと生きものの生みだすもの
～農学部のライフサイエンス～
富田泰輔：薬学部——基礎科学を統合した分野横断型研究者の養成を目指す研究拠点

(理数系辞典案内)

菊地文雄：数理
玉井哲雄：情報
大築立志：身体運動
下井 守：化学
加藤雄介：物理学
松田良一／和田 元：生物学
柴田 大：宇宙科学

お知らせ

情報基盤センター

「お試しアカウント付き並列プログラミング講習会（試行）」の実施について

■開催趣旨

情報基盤センターに設置されているスーパーコンピューター（以降、スパコン）の利用を検討している新規ユーザを対象とした、並列プログラミング講習会（MPI および OpenMP）を実施します。

■対象者

情報基盤センターのスパコンのアカウントを所有しているユーザだけではなく、今後の利用を検討している方（教員、学生、研究員など）を対象にします。

■受講資格

- ・ 情報基盤センターのスパコンの利用資格があること。（教員や学生に限らず、研究員などにも利用資格があります。詳しくは、下記のホームページでご確認ください）
- ・ C 言語および UNIX の基礎知識を有していることが望ましい。（本件は受講条件ではありません）

並列プログラミングの知識・経験は必要ありません。

■開催日時

5月29日（木）10：00～17：15
情報基盤センター 4階 413 遠隔講義室

■講習会プログラム：

10:00～10:30 受付
10:30～11:00 ノートパソコンの設定
(SSH 環境のインストール)
11:00～11:30 スパコンへのログイン・
テストプログラム起動

11:30～12:30 講義：並列プログラミングの基礎
13:30～15:00 OpenMP プログラミング実習
15:00～15:15 休憩
15:15～17:15 MPI プログラミング実習

■詳細および申込方法

受講生に、1週間有効となるスパコン（HITACHI SR11000/J2 モデル）のアカウント（お試しアカウント）を無料で発行します。当日は、受講生が自分のノートパソコンを持ち込み、お試しアカウントを利用した演習を行います。

詳しくは講習会ホームページ：

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/seminar/kosyu/index.html> をご覧ください。上記ホームページから、講習会の申込ができます。会場の都合から、約50名に達しましたら申込を終了させていただきますので、あらかじめご了承ください。

■問合せ先：

〒113-8658 東京都文京区弥生2-11-16
東京大学情報基盤センター 共同利用係
kyoudou@itc.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

生産技術研究所・先端科学技術研究センター

駒場リサーチキャンパス公開2008開催！

あの駒場リサーチキャンパスが、本年も5月29日（木）～31日（土）の三日間にわたって開催されます（時間は10：00～17：00）。同じキャンパスにある生産技術研究所（生研）と先端科学技術研究センター（先端研）が中心となり、年に一度、ほぼ全ての研究室を公開、最新の研究成果を紹介するものです。体験型の展示も各研究室が競って用意しますので、耳慣れない研究も実際に手に触れたりすることで身近に感じることが出来ます。

非常に人気の高い、第一線の研究者による講演会も例年同様、行います。テーマは環境や文化遺産、情報通信などバラエティに富んでいます。また、小中学生も参加できるジュニア企画もあり、近年は企業関係者や研究者に加えて、近隣住民の方々や遠方からバスで乗りつける中高生などの数も急増しています。

中高生を対象にした「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」（主催 SNG: Science for the Next Generations!）は生研と先端研が合同で開催し、複数のお勧め見学ツアーを組む予定です。

世界をリードする最先端の研究に触れ、現場に行き生（せい）の声を聞くことのできる大変エキサイティングな機会です。5月の陽光が新緑に反射するまぶしい季節の駒場リサーチキャンパスへ、是非、皆さまもお越しください。



駒場リサーチキャンパス公開2008のポスター
研究 (RESEARCH) が尽きることのない探求 (SEARCH) の繰り返し
であることを表現している

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第4回高校生のためのサイエンスカフェ本郷

●テーマ

「細胞の中はまさに小宇宙 ～細胞内の“動き”に迫る～」
小田 祥久
(大学院理学系研究科生物科学専攻 博士研究員DC2)
専門分野：細胞分化

●日時

6月14日(土) 13:00～17:00 (12:30開場)

●場所：本郷キャンパス 理学部1号館2階小柴ホール

●対象：高校生

定員：50名 参加費無料 応募者多数の場合は抽選

締切：5月30日(金)

申し込み方法：

下記事項を掲載しメール、または、往復ハガキで以下の宛先までお送りください。

- ・ 氏名、フリガナ
- ・ 連絡先 (メールアドレス、電話番号)
- ・ 所属の高校名、学年
- ・ テーマや演者に対する質問、または、科学に対する興味を50～100字程度

Mail: s-cafe08@adm.s.u-tokyo.ac.jp

ハガキ：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科・理学部 広報室

サイエンスカフェ本郷宛

注：ハガキの場合は締切日必着

詳細はこちら

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/cafe4>

●内容：大学院理学系研究科で活躍する大学院生や若手研究者と、お茶を飲みながら気軽にお話してみませんか？最先端の研究のこと、大学での生活のこと、高校生の皆さんの質問になんでもお答えします！当日は研究室見学も予定しています。ぜひご参加ください。

●主催：理学系研究科・理学部

問い合わせ先：電話 03-5841-7585

e-mail kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第60回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第60回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院理学系研究科の寺島一郎教授による、光と光合成に関わる植物生理生態学の講演です。最先端の植物科学研究に気軽に触れられる、絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

講師：寺島 一郎 (理学系研究科教授)

演題：「葉が緑に見えるのはなぜか？ 光と光合成の話」

日時：6月14日(土) 13時～15時

場所：理学系研究科附属植物園本園 (小石川植物園)
柴田記念館

参加費：無料 (但し、一般の方は入園料が必要です)

参加申込方法：6月9日(月)までに往復ハガキまたは電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信ハガキないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒112-0001 文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会

koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園

杉山宗隆准教授 (03-3814-0368)

お知らせ

情報基盤センター

“分野別データベースユーザトレーニング”開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

6月は、総合・人文社会科学・自然科学の各分野の主なデータベースについて、データベース提供元から講師を招いて、実習形式の講習を行います。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

●申込方法：

予約が必要です。先着順ですので、お早めに、下記のサイトからお申し込みください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●会場：

【本郷】総合図書館 1階 講習会コーナー
(定員 12名)

【駒場】駒場図書館 地下1階 会議室
(定員 24名) ※6/17、6/20のみ

【柏】柏図書館 コンファレンスルーム
(6/11は定員 24名、6/24は定員 8名)
※6/5、6/16は柏図書館メディアホール (定員 144名)
に中継あり

【農】農学生命科学図書館 別館1階 PCコーナー
(定員 15名) ※6/30のみ

●コース内容とスケジュール：

◆総合分野

- (1) 朝日新聞記事データベース「聞蔵II ビジュアル」
(朝日新聞、AERA、週刊朝日、知恵蔵)
6/9 (月) 16:00～17:00 【会場：本郷】
- (2) JapanKnowledge (百科事典、辞書、会社四季報など)
6/10 (火) 15:00～16:30 【会場：本郷】
- (3) EndNote Web (文献管理・論文執筆支援ツール)
6/11 (水) 15:15～16:15 【会場：柏】
6/16 (月) 16:30～17:30 【会場：本郷】 (※)
6/20 (金) 16:30～17:30 【会場：駒場】
※6/16は柏図書館メディアホールに中継あり
- (4) LexisNexis Academic (世界の新聞、企業情報など)
6/12 (木) 13:15～14:45 【会場：本郷】
6/17 (火) 14:40～16:10 【会場：駒場】

◆人文社会科学分野

- (1) eol ESPer (有価証券報告書、企業情報)
6/3 (火) 15:00～16:00 【会場：本郷】
- (2) ASSIA / LLBA (応用社会科学・言語学分野)
6/4 (水) 10:30～12:00 【会場：本郷】
- (3) Lexis.com (世界各国の法令・判例など)
6/12 (木) 15:00～16:30 【会場：本郷】
- (4) Web of Science 人文社会科学系
6/16 (月) 10:30～12:00 【会場：本郷】
6/20 (金) 14:45～16:15 【会場：駒場】
- (5) Eighteenth Century Collections Online
(18世紀英語圏刊行物)
6/18 (水) 13:45～14:45 【会場：本郷】
- (6) Literature Resource Center with MLA (文学に関わる人物、作品情報など)
6/18 (水) 15:00～16:00 【会場：本郷】
- (7) InfoTrac Custom (人文社会系学術雑誌)
6/18 (水) 16:15～17:15 【会場：本郷】
- (8) JSTOR (社会科学を中心とする学術雑誌)
6/19 (木) 15:00～16:00 【会場：本郷】

◆自然科学分野

- (1) Engineering Village (理工学分野)
6/5 (木) 15:00～16:30 【会場：本郷】 (※)
※柏図書館メディアホールに中継あり
- (2) Web of Science 自然科学系
6/11 (水) 13:30～15:00 【会場：柏】
6/16 (月) 13:30～15:00 【会場：本郷】 (※)
6/20 (金) 13:00～14:30 【会場：駒場】
※6/16は柏図書館メディアホールに中継あり
- (3) BIOSIS Previews (生命科学分野)
6/16 (月) 15:15～16:15 【会場：本郷】 (※)
※柏図書館メディアホールに中継あり
- (4) SciFinder Scholar (化学分野)
6/24 (火) 15:00～16:30 【会場：柏】
6/27 (金) 15:00～16:30 【会場：本郷】
- (5) AGRICOLA / ProQuest Agriculture Journals
(農学関連分野)
6/30 (月) 13:30～15:00 【会場：農】

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
20.4.15	富田 京一	辞 職	大学院医学系研究科准教授
20.4.30	金原 数	辞 職（東北大学多元物質科学研究所教授）	大学院工学系研究科准教授
20.4.30	片桐 豊雅	辞 職（徳島大学ゲノム機能研究センター教授）	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター准教授
（採 用）			
20.5.1	瀬戸 泰之	大学院医学系研究科教授	
20.5.1	石谷隆一郎	医科学研究所准教授	東京工業大学大学院生命理工学研究科助教
20.5.1	野口 博司	物性研究所附属物質設計評価施設准教授	
（昇 任）			
20.4.16	岩崎 晃	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
20.5.1	JOHANSSON JORGEN AL F THURE	生産技術研究所准教授	生産技術研究所講師
（配 置 換）			
20.4.16	林 讓	史料編纂所附属画像史料解析センター教授	史料編纂所教授
20.4.16	保谷 徹	史料編纂所附属画像史料解析センター教授	史料編纂所教授
20.4.16	末柄 豊	史料編纂所准教授	史料編纂所附属画像史料解析センター准教授
20.4.16	高橋 敏子	史料編纂所准教授	史料編纂所附属画像史料解析センター准教授
20.4.16	山口 和夫	史料編纂所准教授	史料編纂所附属画像史料解析センター准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び縦前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

平成20年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1374	5月 28日(水)	6月 13日(金)	6月 19日(木)
1375	7月 2日(水)	7月 18日(金)	7月 25日(金)
1376	7月 31日(木)	8月 21日(木)	8月 27日(水)
1377	9月 3日(水)	9月 22日(月)	9月 29日(月)
1378	10月 1日(水)	10月 20日(月)	10月 24日(金)
1379	10月 29日(水)	11月 14日(金)	11月 20日(木)
1380	学生生活実態調査号		
1381	11月 26日(水)	12月 12日(金)	12月 18日(木)
1382	1月 7日(水)	1月 26日(月)	1月 30日(金)
1383	1月 29日(木)	2月 16日(月)	2月 20日(金)
1384	2月 25日(水)	3月 13日(金)	3月 19日(木)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】

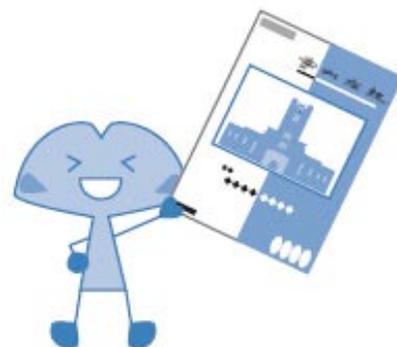
INFORMATION記事ご寄稿の際には、記事上の開催日・〆切等が当該号配布日以降であることをご確認のうえ、お送りください。また、即時性を要求される告知記事の掲載はホームページ・ポータルサイトをご活用ください。

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL:03-3811-3393 内線22031

E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



Contents

特集

- 02 環境安全本部
「東京大学の防災対策」改訂！

NEWS

- 10 エルヴィンシュタイン賞受賞 浅島誠理事・副学長

一般ニュース

- 10 生命科学教育支援ネットワーク
第5回「東京大学の生命科学シンポジウム」開催される
- 11 東大—イェール・イニシアティブ
東大—イェール・イニシアティブシンポジウム開催される！

部局ニュース

- 12 社会科学研究所
バリアフリー対応型トイレ竣工
- 12 分子細胞生物学研究所
平成19年度分生技術発表会を開催
- 13 大学院農学生命科学 研究科・農学部
二宮果樹園の開園式
- 13 大学院総合文化研究科・教養学部
教養学部「国際ジャーナリズム寄付講座」がスタート
- 14 大学院総合文化研究科・教養学部
教養学部正門復元竣工記念式典、開催される
- 15 生産技術研究所
「水の知」(サントリー) 総括寄付講座を設置
- 15 大学院工学系研究科・工学部
「失敗体験研修」が行われる
- 16 大学院薬学系研究科・薬学部
東京大学薬学部創立50周年記念式典が開催される
- 16 生産技術研究所
千葉実験所における快適性評価の研究成果 実用化

キャンパスニュース

- 17 本部入試グループ
平成20年度入学者数決まる
- 18 本部学務グループ
平成20年度進学指導担当教員、決まる

コラム

- 20 Crossroad 産学連携本部だより vol.30
- 21 ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信 第6回～
- 22 コミュニケーションセンターだより No.46
- 22 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第27回

INFORMATION

シンポ・講演会

- 24 大学院農学生命科学研究科・農学部
第34回東京大学農学部公開セミナー
- 24 大学院工学系研究科・工学部
ナノフォトンクス研究センター開設記念「ナノフォトンクス総合的展開2008」シンポジウム開催のお知らせ

お知らせ

- 25 保健センター
百日咳が流行しています
- 25 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第511(5月7日)号の発行
一教員による、学生のための学内新聞—
- 26 情報基盤センター
「お試しアカウント付き並列プログラミング講習会(試行)」の実施について
- 26 生産技術研究所・先端科学技術研究センター
駒場リサーチキャンパス公開2008開催！
- 27 大学院理学系研究科・理学部
第4回高校生のためのサイエンスカフェ本郷
- 27 大学院理学系研究科・理学部
第60回小石川植物園市民セミナーのご案内
- 28 情報基盤センター
“分野別データベースユーザトレーニング”開催のお知らせ

事務連絡

- 29 人事異動(教員)

淡青評論

- 32 知の乖離

◆ 表紙写真 ◆

「東京大学の防災対策」改訂版表紙と
広域避難場所シンボル
(2ページに関連記事)

編集後記

今月の特集は「東京大学の防災対策」。折しも中国では大地震が、ミャンマーではサイクロンが発生し、連日様々なメディアで被災状況が報道されています。悲惨な状況を目の当たりにし、両国で一人でも多くの方の命が助かることをお祈りしています。皆様には今回の特集を機に、震災等発生時にはどのような行動を取るべきか、どこに避難すればよいかをイメージするなど、日頃の防災意識の向上にお役立て頂けましたら幸いです。(た)



七徳堂鬼瓦

知の乖離

理系離れが、よく言われる。子供たちの国際コンクールでの理系数数低下がはなはだしい、論理的思考ができなくなっている、このままでは、ものづくり国家の基礎が失われ、清貧どころか貧相国家に陥るのは目に見えているなど。このような嘆きは、日本だけではなく、欧米の知人からもよく聞く。ものづくりを捨てたアメリカは、だからこそ金融を中心としたグローバルスタンダード戦略を立てたとか、ドイツは、マイスター制度が形骸化し科学技術政策に本格的に力を入れ始めたとか、などなど。

だが、理系離れは、ことの本質だろうか、哲学青年や文学青年はとつくの昔に私たちの周りからいなくなったし、増えたのはむしろIT少年だ。実は、真の問題は、理系離れというより、知離れではないだろうか。理系から離れているかも知れないが、文系からも離れている。危惧すべきは、知からの乖離であり、知の分断である。逆にいえば、知の総合ができれば、理系離れも、文系離れも解消する。

初等教育は知の未分化段階といえ、いわば入口における知への関心喚起のための様々な取り組みが望まれる。一方、大学・大学院の高等教育では、知の総合は、個々の研究を通して多かれ少なかれ実践されており、固有知の深化と発展の成果は、ほとんどの場合分析的ディシプリンにおいて検証されている。だが、高等教育の出口ではどうであろうか。知の総合の有効性のディシプリンを超えた実証は、出口の外、すなわち、社会にそれをゆだねるだけでいいのであろうか。

今後、知の総合を高度に実践するリーダーを養成する高等研究教育機関が必要ではないだろうか。博士課程修了後、5年程度の実世界体験を経た者を対象にした、たとえば、総合科学高等研究学院のようなものを創設すべきではないかと考える。東大内部の組織でなければならない理由はないが、本学がその創設を主導することが期待される。

数学を知らない饒舌な愚者と、哲学を知らない寡黙な愚者が、互いに孤立した行動主体のままでは、おそらく知の未来は開かれない。

上田 完次（人工物工学研究センター）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No. 1373 2008年5月16日

東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL : 03-3811-3393

e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>